

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「若いパパ・ママたちへ」

ある二つの保育園の保育参観日に合わせて、「可愛がられた子が、いい子になる」～おだやかに・くりかえし・ゆっくり～というテーマで、子育てが楽しくなるヒントを伝えました。

1 「ほめ方のポイント」

(1) 60秒ルール

行動の変容は60秒以内の対応で決まるので、行動のすぐ後に具体的にほめる。

(2) 25%ルール

結果（出来栄や能力）よりも、努力している過程をほめてモチベーションを上げる。

(3) 3回ルール

人は同じことを3回ほめられるとその気になるので、複数の人がほめる。

(4) その子に応じたほめ方

優しい表情、温もりのある声のトーン、のんびり抱っこ（なんでもない抱っこ）等、子どもへのリスペクトを示す関わり方をする。

体験コーナーでは、ペアになり「相手のいいところ探し」を行いました。ほめるとは、相手をよく見るだけでなく、肯定的に見ることであり、相手にプラスの感情を伝えることとなります。また、ほめられると、うれしい気持ちになるだけでなく、またほめられたい思い、ほめてくれた人にプラスの感情を抱くことを実感してもらいました。

2 「こんな子になってほしい！」

- ・自分に自信がもてる子
- ・社会で自立できる子
- ・自分らしさのある子
- ・人に迷惑をかけない子
- ・目標を達成できる子
- ・勉強ができる子
- ・思いやりのある子
- ・友達を大切にすること



上記の選択肢から、「我が子にどのようになってほしいか」を尋ねました。多かった項目は、思いやりのある子、自信がもてる子、自分らしさのある子でした。過剰な期待は子どもの発達を妨げることがあります。親の希望通りのことを子どもがしてくれるよりも、子どもの思いにこたえられることに喜びを感じましょう。そして、「あなたのお子さんのよいところは？」と聞かれたら、すぐ答えられる親になってほしいと熱く語り掛けました。

3 保護者の感想

- ・上の子どものときに聞いて、子育ての参考にしたかったです。まだ間に合うかな（笑）
- ・「おだやかに・くりかえし・ゆっくり」・・・、我が家は全く正反対なので・・・（笑）もう少し心にゆとりをもちたいと思いました。
- ・講演会のお話を聞き、「子どものことをもっとほめて伸ばしていかなければいけない」と強く思いました。早速帰ってから、パパと共有しました。（☺）
- ・ちょっと日ごろ怒りすぎているので、一つ一つの言葉が心に響きました。一呼吸置いて、注意したり、ほめてあげたいと思いました。



とれたて直送便



みんなで共有しましょう！

特別支援教育の扉「元気いっぱい・笑顔いっぱい」を校内研修会で活用していると聞いたことがあります。最近、保護者に配付してよいですか？と質問を受けました。特別支援教育の扉を開けるのは先生方です。自由に活用してください。保護者に情報を伝え、ハッとするような気づきができれば、我が子の心の扉を開けることにもつながります。

みんなで情報を共有して、元気いっぱい・笑顔いっぱいになることを願っています。